



とチーム医療の展開にも対応できるようなプログラムを用意しました。A会場では糖尿病学会認定専門医の資格更新に受講が義務付けられている「指定講演」22演題を企画して、糖尿病専門医の知識の整理に役立てていただきました。B会場の「糖尿病診療に必要な知識」22演題では、日常診療で遭遇する問題点の解決に役立つ内容を企画いたしました。C会場では「糖尿病療養指導に必要な知識」として16演題を用意いたしました。栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師に役立つ内容で好評でした。D会場では「臨床が知っておくべき糖尿病の基礎」として種々の臓器とその関連に着目した11演題を企画して臨床と基礎研究の橋渡しができたと思います。

### 特徴あるシンポジウム・世話人特別企画

シンポジウムとして「糖尿病と認知症」「CKDとDKD―病因による治療法を学ぶ」「糖尿病と癌」「ゲノム・エピゲノムと糖尿病」「1型糖尿病の自然史と治療介入」「運動療法 up-to-date」「減塩・低蛋白・低糖質・低脂肪―何が重要？何が危ない？―」を企画しました。「ゲノム・エピゲノムと糖尿病」ではコペンハーゲン大学の Allan Vaag 教授を招聘し、双子研究から得られた糖尿病のエピゲノム制御機構について最新の成果を講演していただきました（図4）。

また明日を担う若手医師のためのスキルアップ・キャリアアップのシンポジウムを企画させていただきました。特別企画として「チーム医療による糖尿病患者のマネジメント」と「糖尿病教育と医療面接」を設けました。これはチーム医療を充実させ、さらに患者教育のスキルアップを目指す企画です。大橋健先生・岡崎研太郎先生にお願いして「グループワークで極める糖尿病教育の実践」と題して参加型のグループワークを開催してこれも好評でした（図5）。

また温故知新と言われておりますが、歴史を学ぶ事によって新たな発想を得る事ができます。世話人の特別企画として糖尿病の歴史を取り上げました。堀田饒先生には「切手にみる糖尿病の歴史」、大森安恵先生には「糖尿病の歴史」、八木橋操六先生には「ランゲルハンス島ヒストリア」を御願ひしており、世話人が「糖尿病性腎症の歴史」を担当しました（図6）。

3,900人の医師とメディカルスタッフが「糖尿病学の進歩」に集い、350人の一般の方々が市民公開講座に参



図4



図5



図6

加して、成功裏に終了いたしました。「糖尿病学の進歩」の開催にあたり、ご寄附を賜りました企業・財団の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、開催報告とさせていただきます。

平成27年5月受理  
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1  
電話：086-235-7235 FAX：086-222-5214  
E-mail：makino@md.okayama-u.ac.jp